Introduction about Hirosaki city

H29.11.9 in Brussels

Overview of hirosaki city

■From Haneda to HIROSAKI

～By Airplane～

Narita Airport

↓(1hr15min)

Haneda Airport

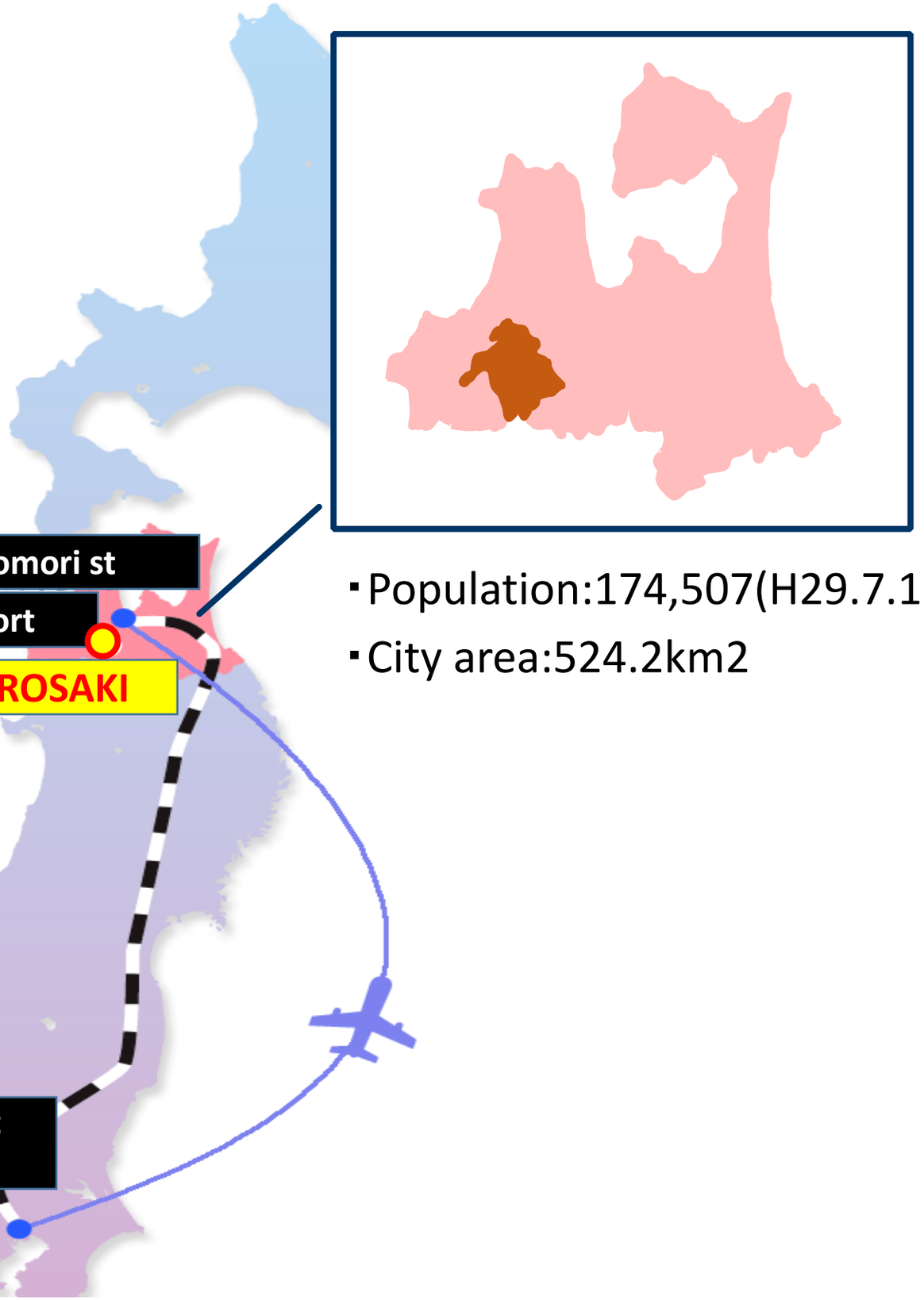
↓(1hr15min)

Aomori Airport

↓(55min by bus)

Hirosaki City

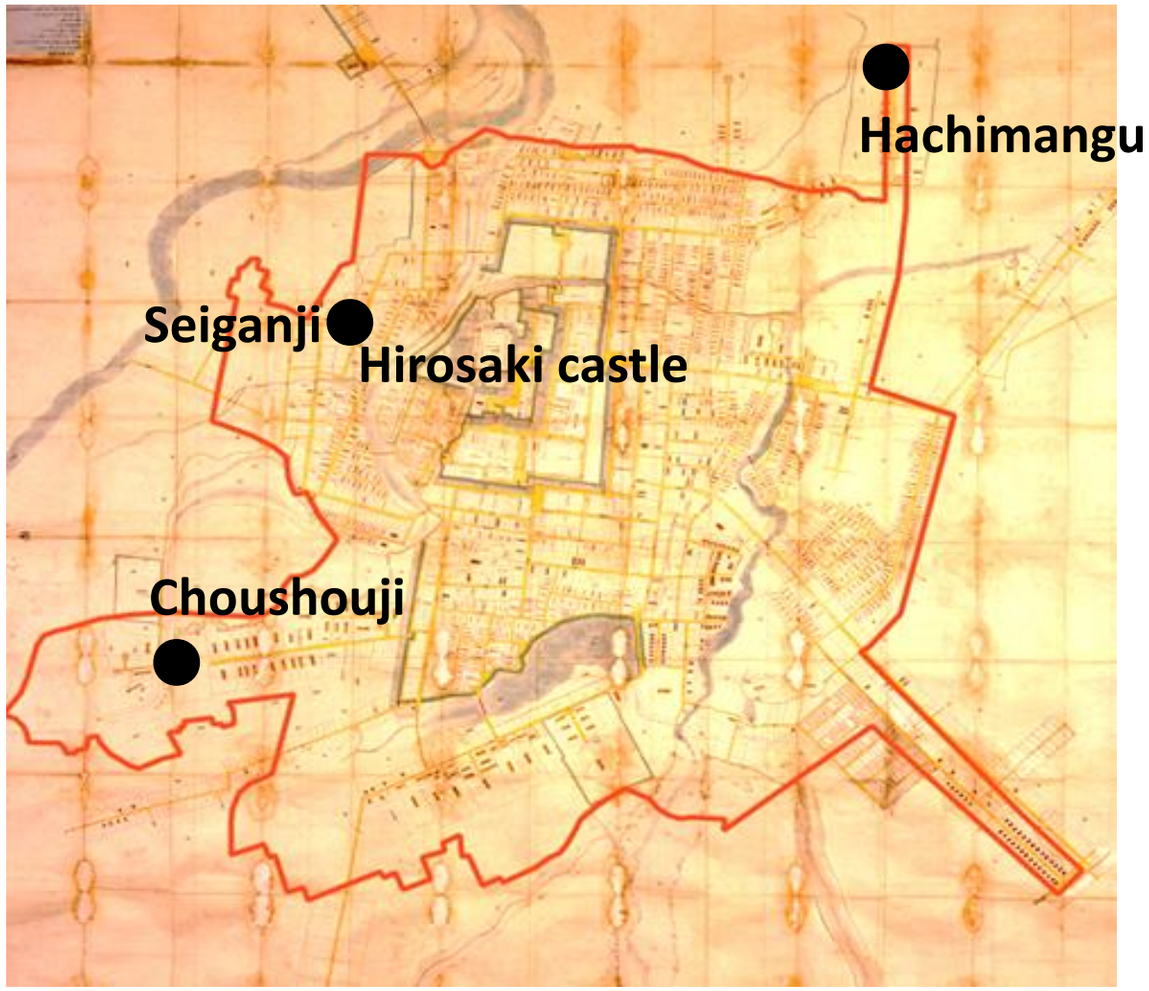
The northernmost end of Honshu



- Population:174,507(H29.7.1)
- City area:524.2km2

“Compact urban structure based on the town divide in Edo period”

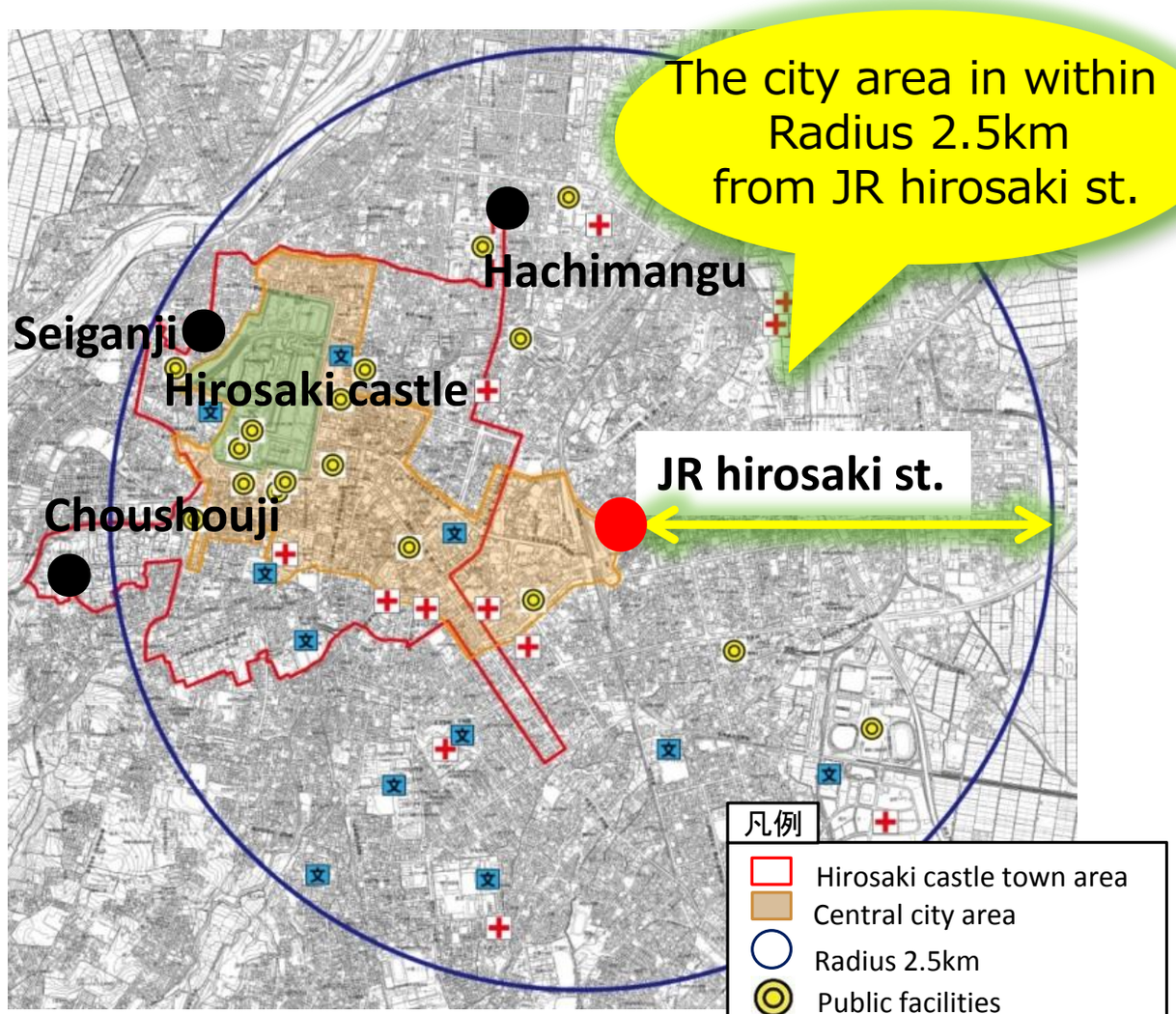
The town divide in Edo period



source:弘前惣御絵図

Hirosaki castle town area

Current town divide



“Remain Japanese traditional cultureand “Japanese style” western architectures”

Important cultural properties

Choushouji(temple)

Mt.Iwaki shrine

Saishouin Five-Storied Pagoda

“Japanese,Tsugaru style”western architectures

Memorial Hall of Aomori Bank

Hirosaki Gakuin
Foreign Missionary Residence

Former city library

Modernism architectures
by maekawa kunio

“Also Japanese traditional culture and “Tsugaru style”western culture”

Zen temple area(Zazen’s experience)

Oyama sankei(Mt.iwaki Pilgrimage)

There are many Christian-related architectures

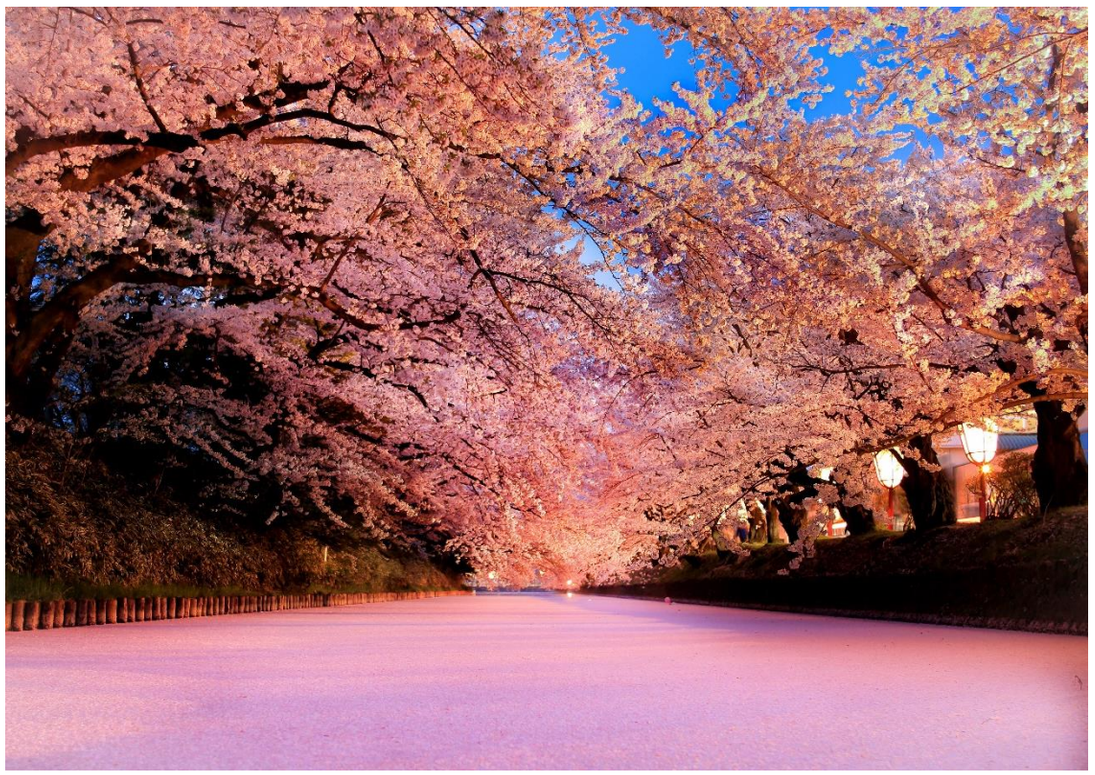
Main industry of hirosaki city

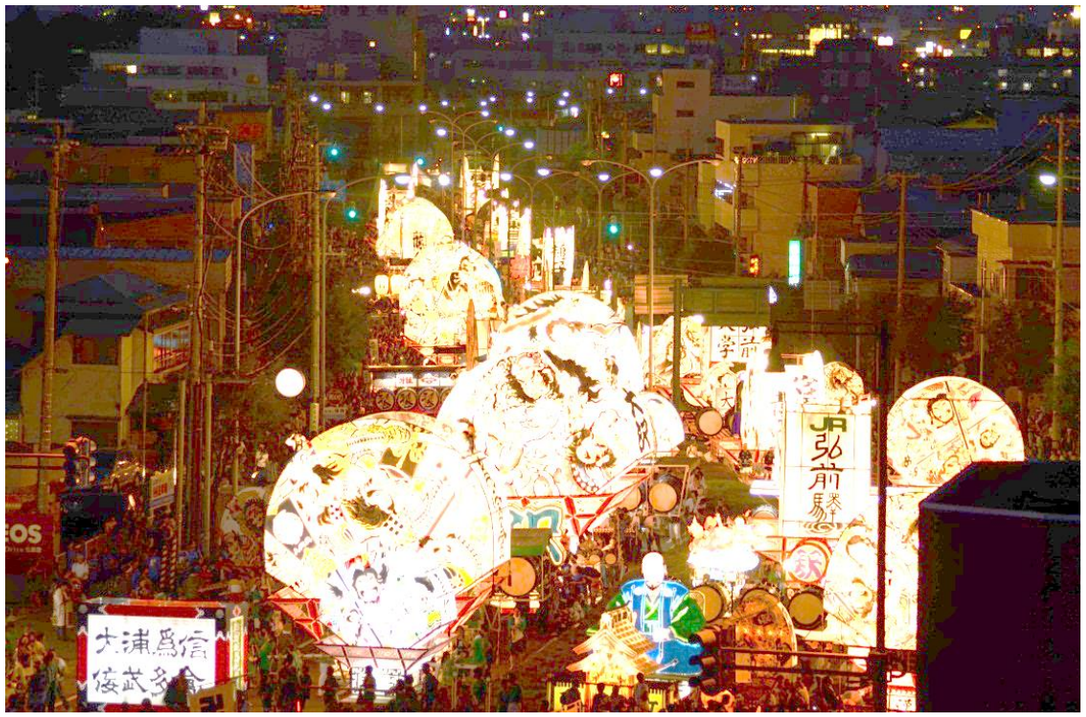
“Apple”

・Approximately 20% of Japan production

・Sales topped 100 billion yen(total of aomori pre)

“Tourism”





・Brand power for tourism is No.1 in tohoku

・12spots listed Green michelinman guide japan

歴史的価値だけじゃない新しい価値を創造　～弘前公園周辺等の魅力向上～

市民に愛され親しまれる施設を次世代に継ぐ
～弘前市民会館・弘前市立博物館リニューアル事業～

弘前市民に「文化の殿堂」として愛され親しまれている前川國男設計の市民会館及び博物館を次世代に継ぐため長寿命化及びリノベーションを実施。
時代に合わせた設備改修や機能向上を実施しつつ、棟方志功デザインの緞帳の復元やポーチ屋根の屋外カフェテラス化といった親しまれる工夫も。

【棟方志功の緞帳】

【弘前市民会館】

【弘前市立博物館】

100年に１度のピンチをチャンスに！
～弘前城本丸石垣修繕活用事業～

弘前城天守の石垣修繕には、約10年間かかることから、観光資源としては大きなピンチとなるが、これを好機とするため、市民体験型のイベント（曳屋体験等）化より改修事業を「自分ごと化」。市民の財産として弘前公園を捉え、新たな活用方法の検討・実践を継続して実施している。

【石垣修繕工事】

【曳屋イベント】

インフラを観光資源に活用
～弘前公園外濠の花筏（はないかだ）の形成～

外濠を河川化することにより水量の調整をし、生まれた流れを活用して花筏を形成、景観価値を構築した。
2014年「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」に選出され、新たな観光資源として人気となる。

【濠を埋め尽くす桜の花びら】

「歴史を味わう」施設として活用
～旧第八師団長官舎のコンバージョン～

会議室のみの利用であった文化財施設を市民の身近な施設にするべくカフェにコンバージョン。
建物そのものの意匠を大切にし、地域の素材や伝統工芸をアレンジしながらデザインに取り入れ、コーヒーとともに建物の歴史も一緒に味わってもらう。

【旧第八師団長官舎】

【店内の様子】

文化財庁舎を「100年庁舎」に！
～市庁舎増改築事業～

国登録有形文化財である本館（前川國男設計1958年竣工）の外観を生かしながら長寿命化及びリノベーションを実施。
周辺の庁舎の再編・機能集約によって増築され新庁舎とともに、行政の中心として使いながら次世代に歴史的価値を継承。

【市庁舎】

【完成イメージ】

市民や観光客がくつろぐ空間を創出
～藤田記念庭園利活用事業～

洋館内の喫茶室に、高品質音源による「白神の音」の提供や、「りんご」や「桜」の香りによる癒しの空間により一層快適に過ごすことのできる環境を整備。

【藤田記念庭園　洋館】

効果　✿弘前公園周辺等の魅力向上に寄与✿

【指標】弘前公園周辺施設の入館者数（経営計画）
基準値H25　45,618人　H27　214,673人（目標値上回）　目標値H29　54,460人
【指標】宿泊者数（経営計画）
基準値H24　525千人　H27　610千人（目標値の97%）　目標値H29　630千人
【指標】観光消費額（経営計画）
基準値H24　17,270百万円　H26　19,500百万円　目標値H29　20,724百万円

Best Practice 2(smart city)

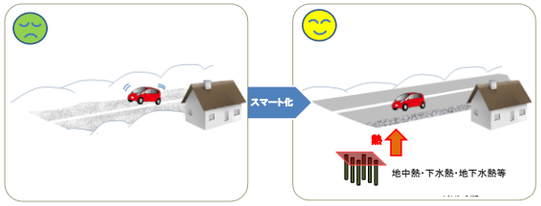
くらし

融雪推進・快適外出プロジェクト

本プロジェクトでは、産学金官及び市民との連携により、再生可能エネルギー・未利用熱を活用した融雪システムの実用化を図ります。

フェーズ2では融雪推進の他、空き家等で使われない土地の活用を検討します。

将来的には、再生可能エネルギーを最大限利用した融雪システムの展開を核として、重機による除排雪作業の課題を補完します。また、市民協働や公民連携による資金面・管理面の課題解決、AIロボット搭載の雪氷作業車自動運転の実証等、本プロジェクトの次世代への波及性を高めます。



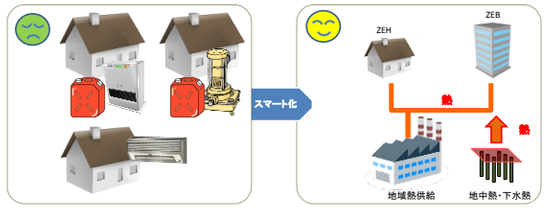
- 地中熱や下水熱、地下水熱等の再生可能エネルギーによる融雪導入
- 融雪システムを除排雪困難地区等に導入
- 空き家を解体した土地・空き地の雪対策への利活用検討

快適住環境プロジェクト

本プロジェクトでは、再生可能エネルギーを活用した低コストでクリーンな暖房の導入や省エネ住宅等の整備を推進します。

フェーズ2では、地域連携による木質バイオマスのサプライチェーン構築及びZEH・ZEBなどの省エネルギー技術等を活用した熱利用最適化を検討します。

将来的には再生可能エネルギー等による地域熱供給体制の実現により、地域の熱利用を最適化し、化石燃料の消費抑制と一年を通して快適に生活できる住環境



- 地域内の地中熱、地下水熱、津軽地域の木質バイオマス等の再生可能エネルギーを活用した冷暖房を導入
- 工場排熱やエネルギーセンターからの地域熱供給
- 化石燃料に頼らない住環境の整備

雪資源活用プロジェクト

本プロジェクトでは、未利用である雪資源の活用を行います。

フェーズ2では、雪氷冷熱利用の推進とともに、雪室で冷蔵された市内農産品等の地域ブランド化を図ります。

将来的には、雪をエネルギー源として活用し、地域に利益をもたらすしくみの実現を図ります。

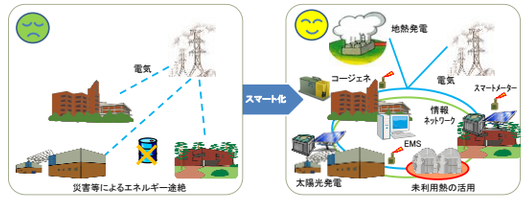
エネルギー

エネルギー自律・地産地消推進プロジェクト

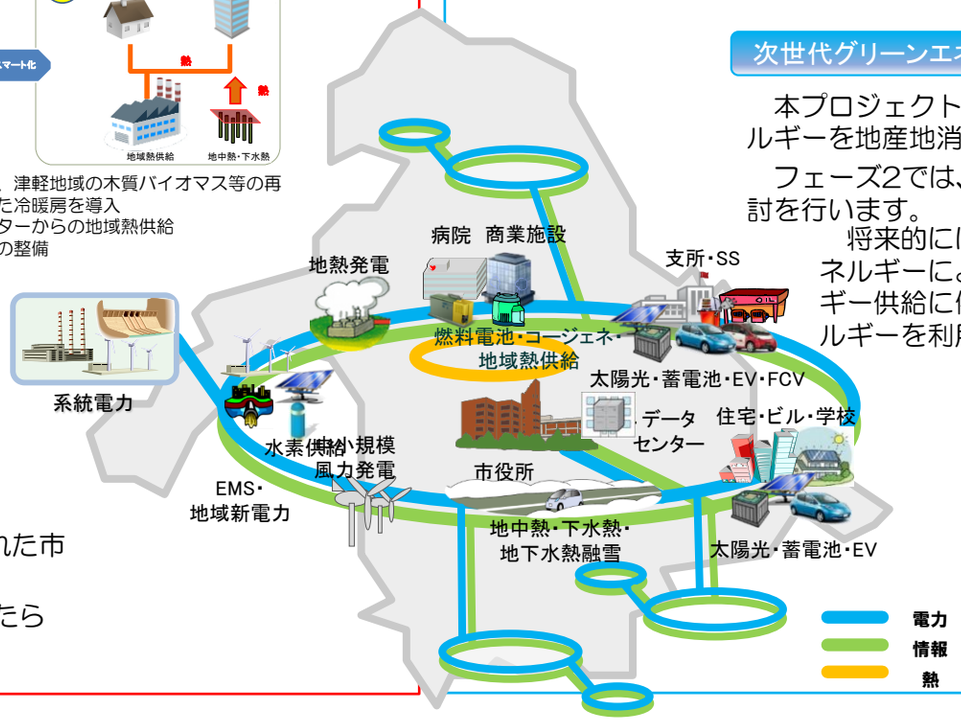
本プロジェクトでは、自立分散型エネルギーの導入等により災害時に市民生活や経済・社会活動の継続に必要なエネルギーを確保することで、エネルギーの自立性と地域のレジリエンス性の向上を図ります。

フェーズ2では、再生可能エネルギー導入促進、本庁舎を核としたエネルギーネットワーク及びVPP（仮想発電所）の構築、地元事業者主体の地域新電力によるエネルギーの地産地消推進等を検討します。

将来的には、エネルギーの地産地消を通じて、より暮らしやすく、そして豊かな地域への発展を図ります。



- 地域の主要施設、小学校等の避難施設への自立分散型エネルギー設備及びEMS導入によるエネルギー有効利用推進
- 市役所新庁舎を核としたエネルギーネットワークの構築と地域全体への波及
- バイオマスや中小規模風力、未利用熱等の再生可能エネルギー利用の促進
- 地域主体の新電力会社によるエネルギー地産地消の強化



次世代グリーンエネルギー利用モデル構築プロジェクト

本プロジェクトでは、再生可能エネルギーにより、弘前市内で水素エネルギーを地産地消する「弘前型水素利用社会モデル」の構築を図ります。

フェーズ2では、引き続き再生可能エネルギーを活用した水素事業の検討を行います。

将来的には、津軽地域の豊富な再生可能エネルギー及び未利用エネルギーにより製造した水素を活用することで、外部からのエネルギー供給に依存している化石燃料消費社会からグリーンな水素エネルギーを利用する社会への移行を目指します。

- 再生可能エネルギー、未利用エネルギーによりグリーンな水素エネルギーを製造する技術の確立
- グリーンな水素を地域の中で利用する基盤と体制の構築
- エネルギーを外部に依存している化石燃料消費社会から、地産地消の水素エネルギーを利用する社会への移行

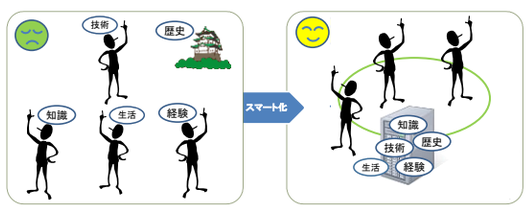
ICT

ICTによる「地域の知と智」の集積・一元化プロジェクト

本プロジェクトでは、ICT等を活用することで、市民生活の利便性・快適性向上を図ります。

フェーズ2では、マイナンバーカードの利活用に関する動向を見据えつつ、ICカード等の1つのアイテムで対応できる仕組みの構築を検討します。

将来的には、行政、医療・福祉、教育、公共交通等の利便性をより向上させるとともに、弘前市が長く積み上げてきた歴史・伝統・文化等の資産を次世代へつなぐための基盤や環境の整備実現を図ります。



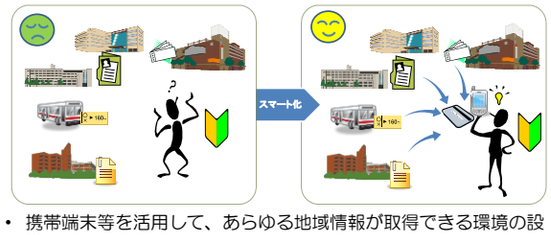
- 地域史、農業等の経験に基づく知識・情報・伝統技術等をICTによりアーカイブ化
- 医療・福祉・教育・公共交通・行政サービス等、ICTを活用し、様々な場面をICカード等1つのアイテムで対応できるしくみの実現

ICTによるスマート観光都市実現プロジェクト

本プロジェクトでは、ICTの活用により、観光情報の充実及び交通機関の利便性向上を図ります。

フェーズ2では、IoTを活用して観光客のニーズを把握しつつ、観光客向け携帯端末の導入、市内のWi-Fi環境整備等、観光客の満足度及び利便性向上につながる取組みを検討します。

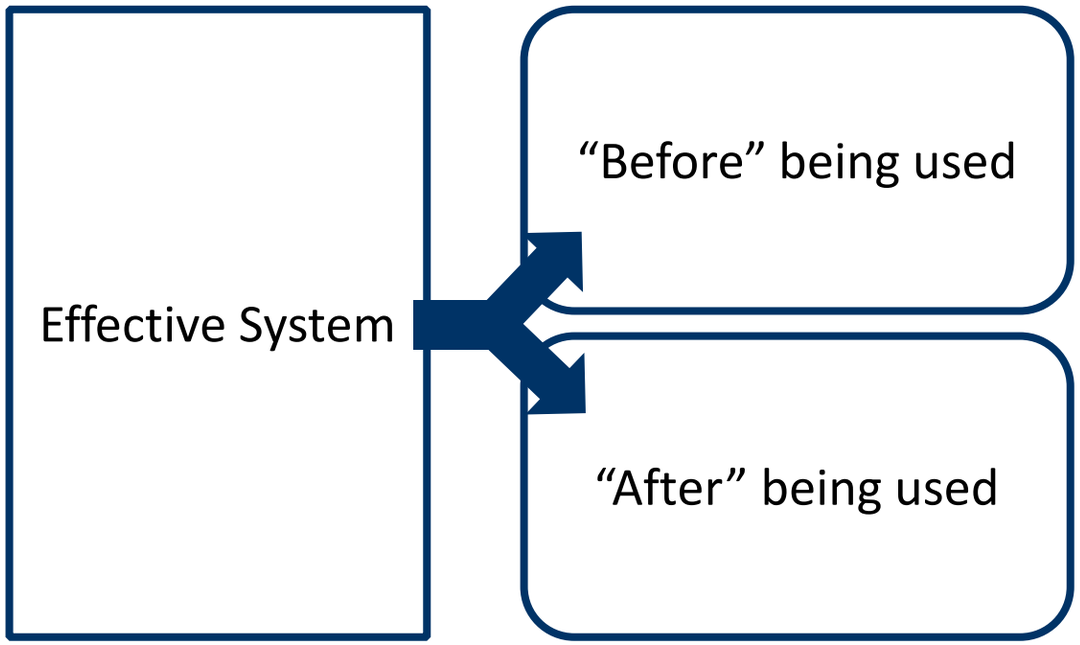
将来的には、ICTを観光分野に活用することで、グリーンでスマートな観光ができる環境を整え、観光都市としてのさらなる付加価値を高めます。



- 携帯端末等を活用して、あらゆる地域情報が取得できる環境の設備
- 年齢や国籍を問わずあらゆる観光客や来訪者が、初めて市内を訪れる場合でも、自由に安心して観光が可能となる環境を整備

The theme in this project

To construct “effective systems” to realize efficient operation of public buildings



How to make an efficient building physically

- structure of buildings
- energy management system etc.

Whether the building itself has a self-sufficient cycle

- Profitable ways to use(B/C)
- Principal and organization of management
- The way of owning each of the rights of land and buildings between the municipality and the private

This two factors are both important